

わたしたちで考える



公共施設の未来



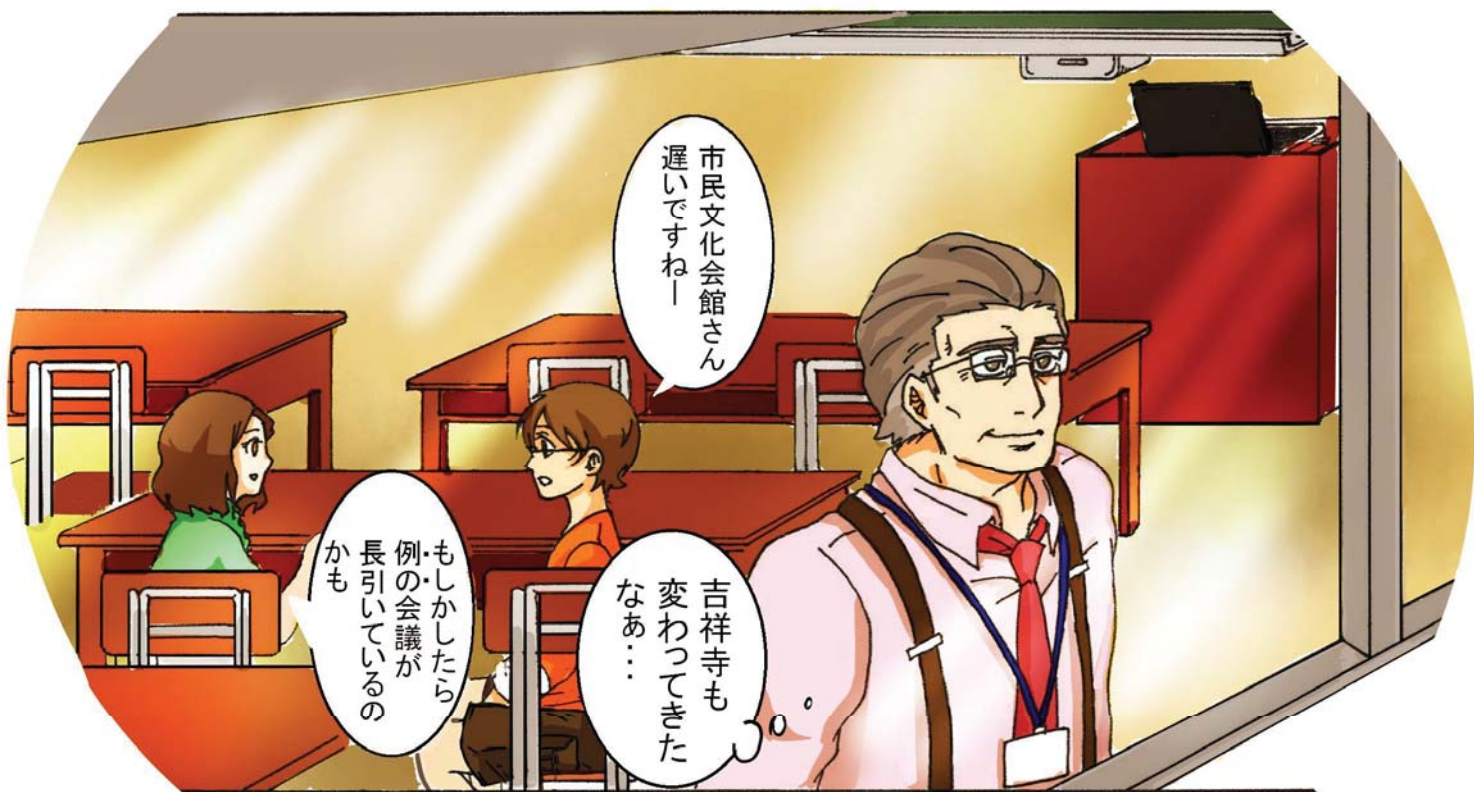
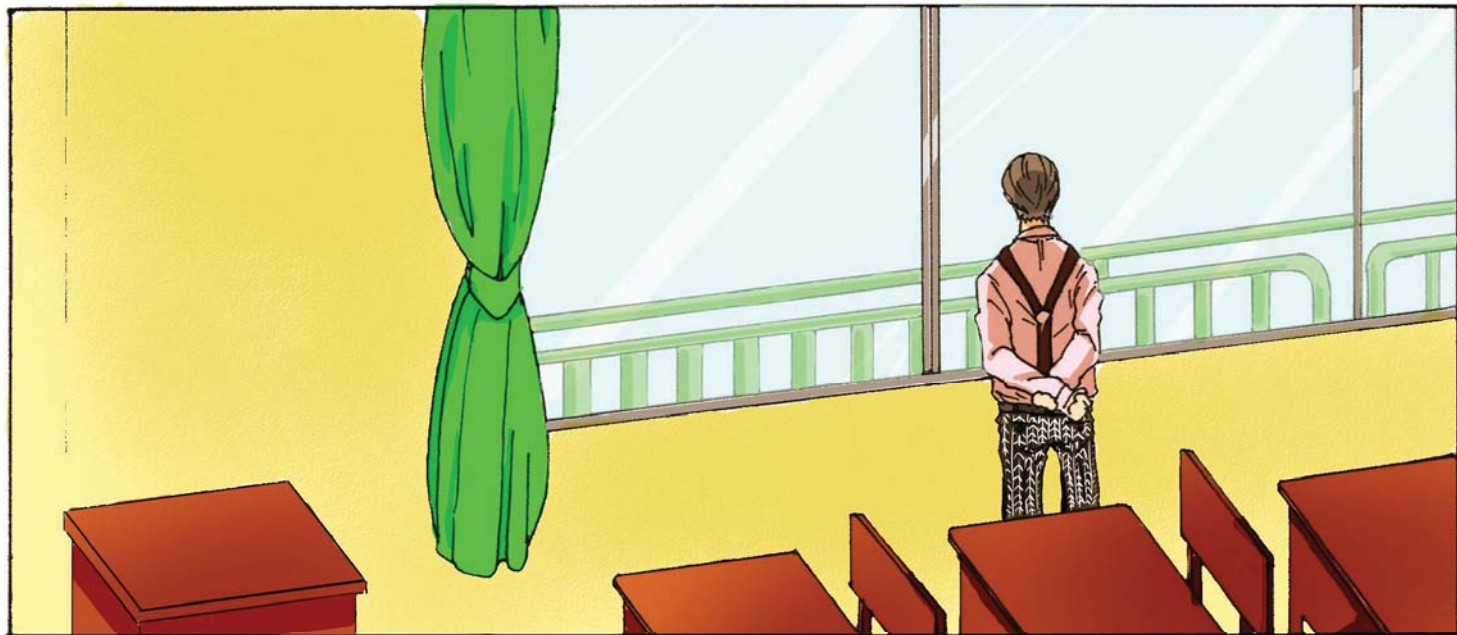
とある晴れの日―

しかし
彼らは
“ビット”
ではなく

“公共施設”
に宿った
“精霊”たち
なのでした

武蔵野市某所で
何やら話し合いが
始まろうと
しています

※このマンガは、季刊むさしの2013年夏号の特集記事を基にしています。
※ここでの公共施設とは、市が所有する建物(学校や文化施設など)とし、
上下水道等の都市インフラは対象外としています。





ちなみに
公会堂は
築五十二年
なんですよ



五十二年に
なるんですね！
貫禄が
ありますね



大野田
小学校は
築十年に
なります！

大野田小学校



私
武蔵野
プレイスは
築四年に
なります
比較的
新しい
ですね

武蔵野プレイス



武蔵野市の
そして
全国のまちが
抱えている
問題を
ご存知ですか？

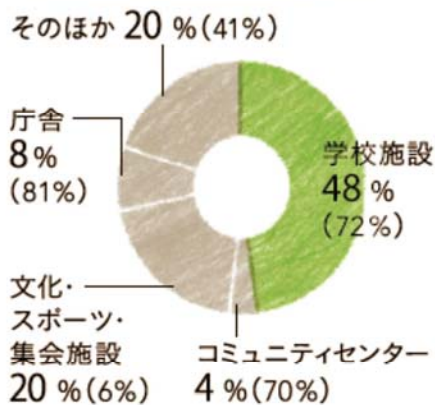
ところで
皆さん

今日集まって
いただいたのは
今の話に関係して
いるんですよ

そういえば
築三十年以上という
知り合いが
たくさんいますよ

もうそんなに
なりますか…
若くありたいもの
ですね…

▼ 施設構成比率〔用途別〕



※カッコ内の数字は、築後30年以上の割合

▼ 施設構成比率〔築年数別〕

築年数	延床面積(m ²)	構成比率(%)	代表的な施設
50以上	8,367m ²	2.6%	五小北校舎、五中南・北校舎
40～49	70,036m ²	21.4%	公会堂、一中校舎、五中体育館
30～39	95,367m ²	29.1%	市役所庁舎、境南コミセン
20～29	77,796m ²	23.9%	市民文化会館、総合体育館
10～19	39,383m ²	12.0%	中央図書館、商工会館
0～9	36,095m ²	11.0%	武蔵野プレイス、吉祥寺シアター
計	327,044m ²	100%	

53.1%

出典：季刊むさしの2013年夏号18頁

解説：学校や公会堂など、市が設置している多くの公共施設は昭和40～50年代に鉄筋化や新設されたもので、その老朽化が進んでいます。特に全公共施設の総床面積の約半分を占める学校では、7割以上が築後30年を超えています。老朽化した施設は、構造的な危険性が増えるだけでなく、性能や使い勝手が時代のニーズに合わなくなっていく点も見逃せません。

ご覧下さい
公共施設の老朽化が
進んでいるのです！





※市民文化会館は改修工事のため、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの期間、全館休館を予定しています。



一方で
働き手が減ると
市の収入が増えることは
予測しづらいですね

これから多くの公共施設が
老朽化していくので
建替えや改修工事にかかる
費用(投資的費用)は
どんどん多くなります



公共施設を今までどおり維持した場合の財政イメージ



出典: 季刊むさしの2013年夏号19頁

解説: 公共施設をこれまでどおり維持するためには、今後20~30年間に多額の費用(投資的経費)が必要です。しかし、今後の武蔵野市の財政シミュレーションでは、道路・上下水道などの都市基盤整備などにより、一定の歳出が必要となる一方、歳入の増加は期待できません。また、65歳以上の高齢者数の増加にともない、高齢者福祉や保健・医療に係る費用の増加が見込まれています。一方で子育て支援体制の整備など、少子化対策も必要です。

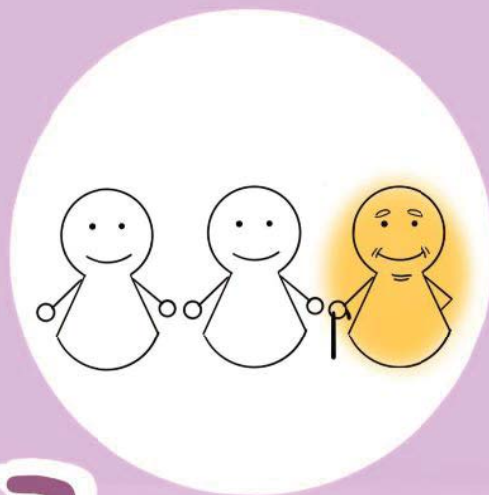


今後高齢者数が
増加し
高齢者福祉や保健
医療・介護などの
社会保障のための
費用がさらに増える
ことが見込まれる
からです



ここ(義務的経費)に
かかる
お金が増えているのは
どうしてですか？

ちなみに
人口構成はイメージにすると
左のようになります



そうか
だからか!

5人に1人

3人に1人

ということは一
きつとこれから
高齢者の福祉・保健・
医療にかかるお金は
どんどん必要になるかもだし
それに
子育てに必要な支援や
保育園も必要に...

そしたらそしたら...!!
ごみ処理や消防
防災とかのサービスを
減らせばいいというわけには
いかないし
だからといって増税も
いやだよ...!!

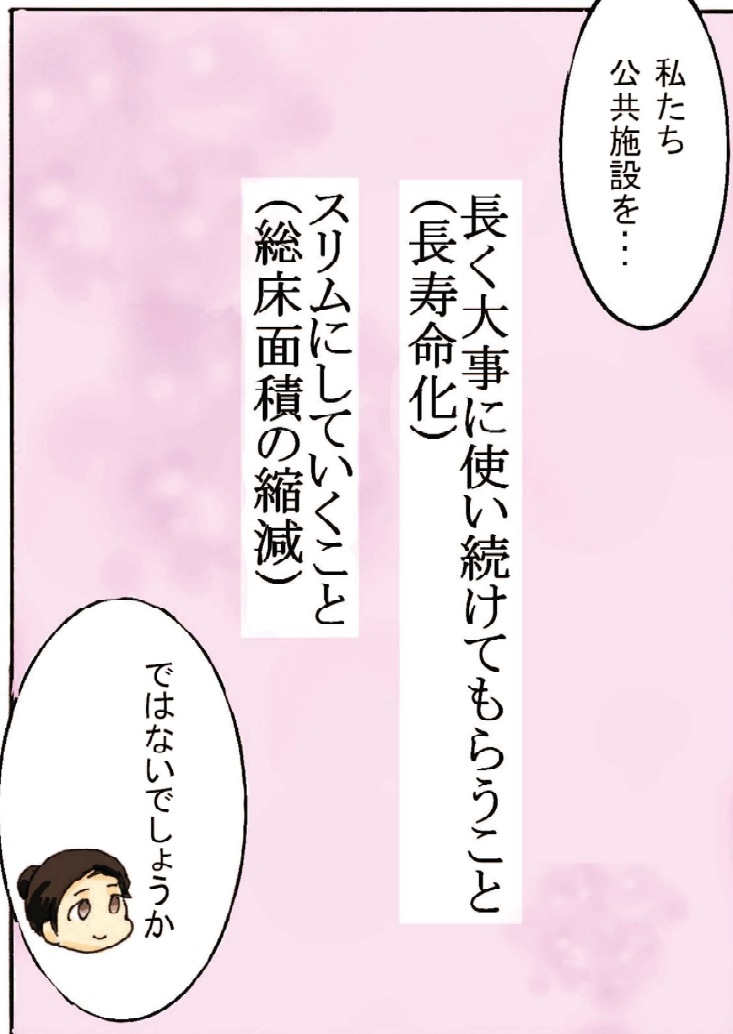


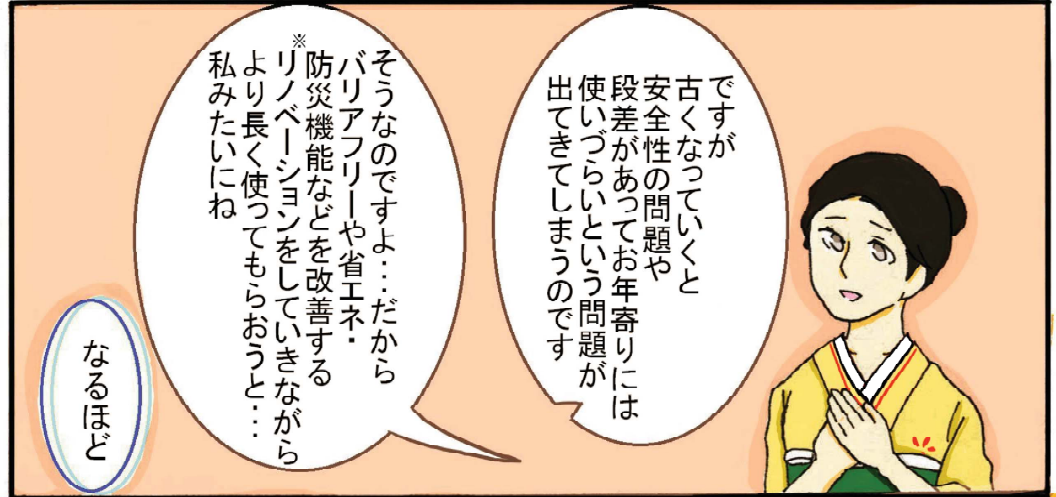
かくなる上は...
これを取るしか



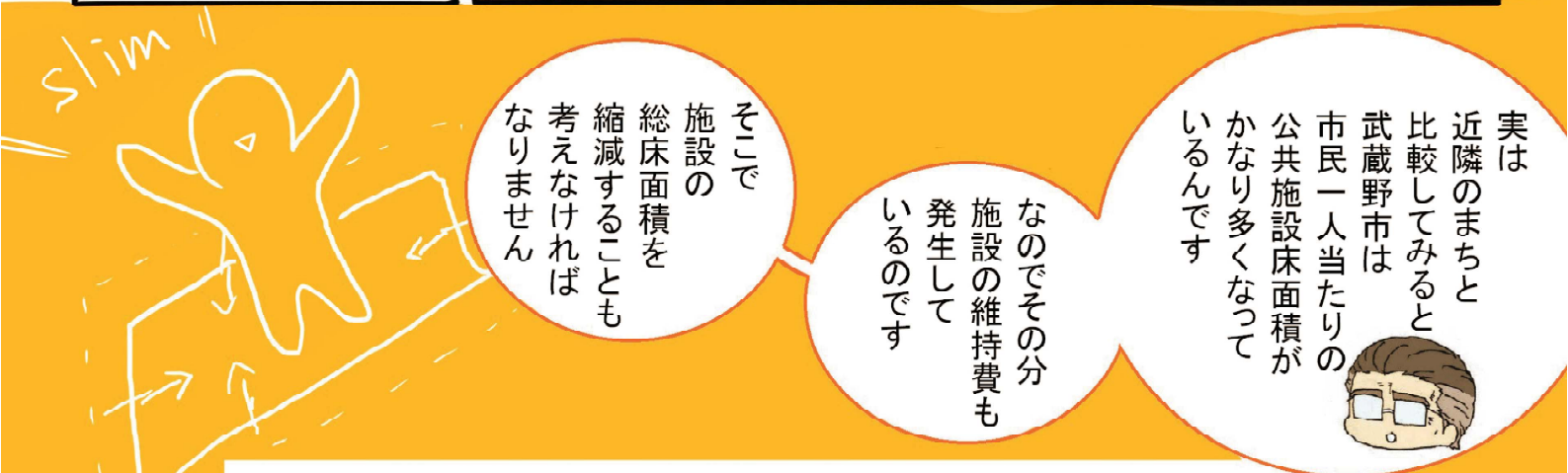
ないのだろうか
!!?

抑制が
必要な投資的経費





※既存の建物に大規模な改修工事を行い、用途や
機能を変更して性能を向上させたり付加価値を
与えること。



▼ 近隣市区の住民1人当たりの公共施設床面積

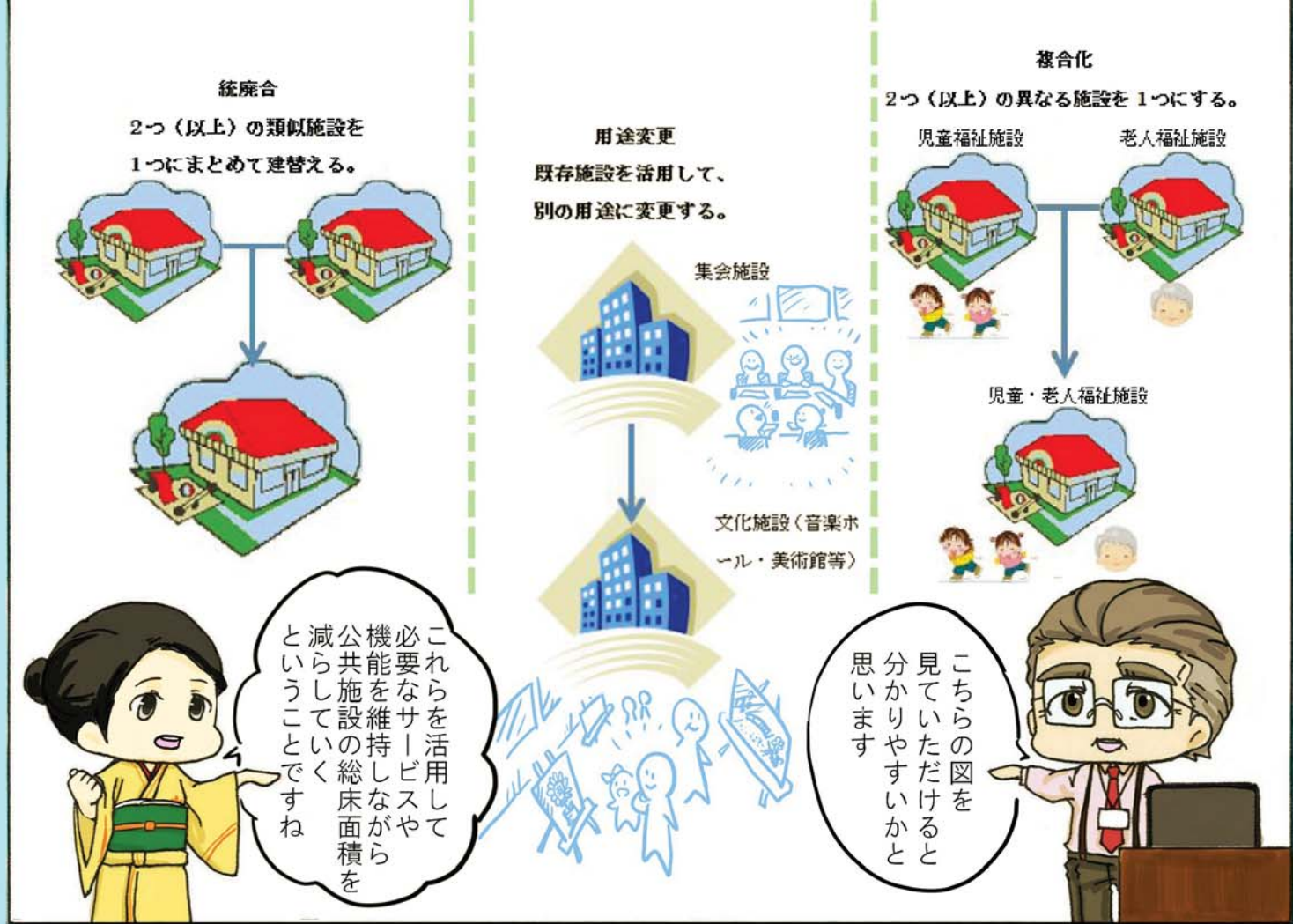
自治体	面積(km ²)	人口(人)※	人口密度 (人/km ²)	公有総床 面積(m ²)	住民1人当り 床面積(m ²)
武蔵野市	10.73	138,301	12,657	327,044	2.365
三鷹市	16.50	179,644	10,714	316,997	1.765
練馬区	48.16	708,500	14,711	1,167,299	1.648
西東京市	15.85	197,729	12,279	325,545	1.646
杉並区	34.02	539,482	15,858	827,457	1.534
小金井市	11.33	115,971	10,053	174,211	1.502
世田谷区	58.08	857,737	14,768	1,192,300	1.390

※人口は平成24年4月1日時点(外国人含む)

出典：季刊むさしの2013年夏号19頁

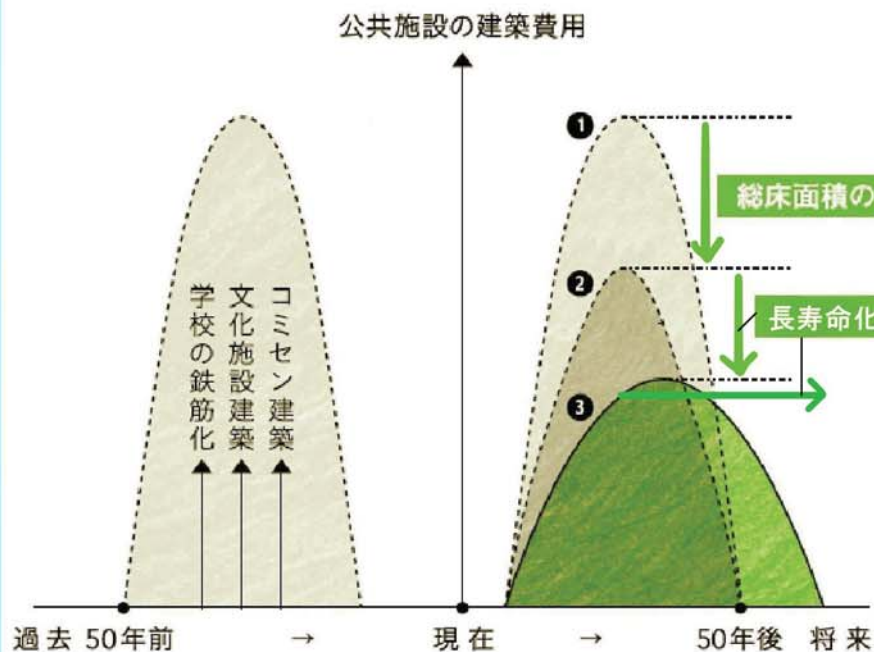
平成23年度末

なるほど、これが
「スリムになること」に
繋がるんですね！



▼ 総量縮減と長寿命化の効果

- ① 現状維持 ② 施設の総床面積を縮減した場合
- ③ 施設の総床面積を縮減し、施設を長寿命化した場合



これで
私たちが先ほど挙げた
「長く大事に使い続けて
もらうこと（長寿命化）」
「スリムにしていくこと
（総床面積の縮減）」
によって
どういう効果が
あるかというところ

「総床面積縮減」により
建替え費用が減ります
そして
「長寿命化」することで
左のようにグラフの
費用の山は緩やかになり
一度に多くの施設が
建て替えの時期を
迎えることを
回避できるのです

出典：季刊むさしの2013年夏号20頁

解説：これまで述べた公共施設の現状と課題を踏まえ、建築費用の削減を図りながら公共施設の更新を進めるイメージが、この図です。
今までどおりに維持・建替えする(①)ことが財政的に難しいため、今後は総床面積の縮減(②)について具体的な検討を行うことが不可欠です。それと同時に、建物をより長く使っていくために、必要な改善を計画的に実施し、時代のニーズに合った施設に改修するといった長寿命化の取組み(③)が必要です。

三層構造

さんそうこうぞう
三層構造？

こんな考え方が
あります

カッ



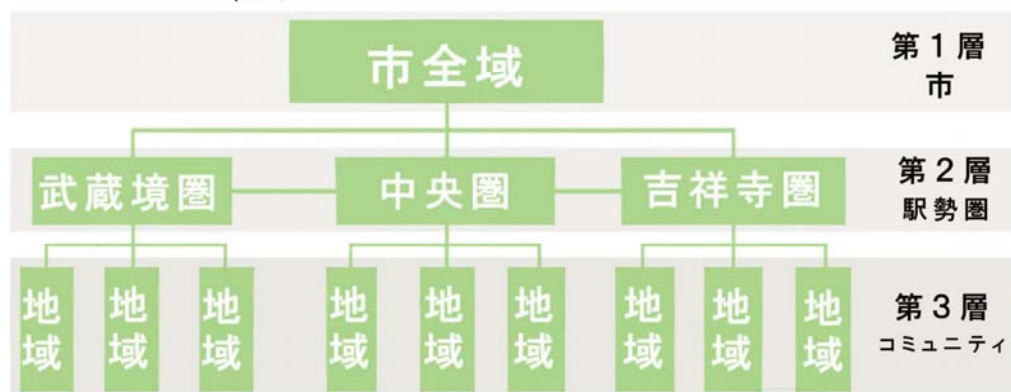
その他にも
いろんなことが
考えられるんですよ

そうですね
例えば…

駅勢圏レベル(各駅)に
一つ必要なもの
例えば
現在であれば
図書館ですかね

市に1つは必要
という施設は
例えば
総合体育館でしょうか

つまり
必要な施設を
三つのレベルに分ける
考え方です



出典: 季刊むさしの2013年夏号20頁

解説: 「三層構造」とは、公共施設を効率的・効果的に配置するために、武蔵野市がとってきた基本となる考え方です。生活空間を、地域生活単位としての「コミュニティレベル」、より広く交流を図るための「駅勢圏レベル」、そして「市全域レベル」に分類し、3つのレベルごとに必要な施設を配置することで、施設の無駄を抑えます。この考えに基づいて、近隣自治体との連携も視野に入れながら、より効率のよい施設サービスを目指します。



～武蔵野市全国～

コミュニティレベルに
一つ必要なもの
例えば
コミュニティセンターが
そうですね

このように
必要な施設を
三つのレベルで
設置することで
施設の過剰設置を
抑えよう
というものです

なるほど

へー！

・行政と民間との役割の整理

施設サービスの全てを行政が提供するのではなく、民間による施設サービス(高齢者・障害者福祉や子育て支援、スポーツなど)が活用できる場合は、提供主体を民間に移行する。

・駅周辺の面的整備

老朽化する公共施設だけ(点)ではなく、例えば吉祥寺駅南口再開発や三鷹駅北口まちづくりなど地域整備(面)の中で、公共施設の更新や配置のあり方を考える。

・受益者負担の適正化

施設サービスは、税によって支えられていることを十分考慮したうえで、施設を利用する「受益者」と、利用しない人との間で公平性を確保できるように、サービス利用料金を適正な負担としていく。

など

他にも色々と
考えられますよ

今の話だけでも
これだけあるの
ですね…

考えることが
たくさん！

解決して
いかなければ
ならないん
です!!!

皆さん
ご理解いただけ
た
でしょうか？
そう…
私たち公共施設が
抱えている問題を



そして、私たち公共施設の
あり方を見直す目的が
3つあります。

今まで話し合ってきたのは、
公共施設の現状と課題について、
皆さんに知ってもらうためです。



①

市民生活を支える
施設サービスの
安定した提供

②

時代のニーズに
応える施設
サービスの提供

③

新たな都市文化を
創造する場の
提供

私たち公共施設の未来を、
みんなで話し合い、共有しましょう。



将来にわたり、健全な財政運営と市民生活を支える施設サービスの提供を実現するために、武蔵野市では現在、学校や文化施設、上下水道、道路などを含めた公共施設の老朽化と更新に関する問題の解決に向けた検討を進めています。

市民の皆さんとこの問題を共有し、市民の皆さんとともに解決方法を考えていくために、今回のマンガという手法も取り入れながら幅広い世代に向けた様々な情報発信や市民説明会・意見交換会、パブリックコメント等に取り組んでいきます。

このマンガは、季刊むさしの 2013 年夏号 特集2『わたしたちで考える公共施設の未来』の内容を基に、武蔵野市と包括的連携協力協定を結ぶ亜細亜大学の漫画研究会の皆さんとともに制作しています。

季刊むさしの 2013 年夏号 特集2『わたしたちで考える公共施設の未来』は、武蔵野市ホームページでご覧いただけます。

武蔵野市 わたしたちで考える公共施設の未来 で

検索

http://www.city.musashino.lg.jp/koho/kikan_musashino/015490.html



武蔵野市 わたしたちで考える公共施設の未来

平成 27 年 3 月

発行元：武蔵野市総合政策部企画調整課

〒180-8777 武蔵野市緑町2丁目2番28号

TEL 0422-60-1801

FAX 0422-51-5638

Eメール sec-kikaku@city.musashino.lg.jp

URL <http://www.city.musashino.lg.jp>

制作協力：亜細亜大学 学術文化連合会 漫画研究会 の皆さん